

## ◇栽培漁業関連指導

# ハマフエフキの中間育成

多和田 真 周

### 1. 目的

中間育成技術全般の指導

### 2. 対象

中城沿岸漁業振興推進協議会

### 3. 協力機関

県栽培漁業センター

### 4. 経過

前年度は中城浜漁港内において5万尾を中間育成し、4万尾弱（歩留まり80%）の胸鰭の鰭抜きを実施して標識放流した。

今年度は与那原漁協が飼育担当することが決定したので、生け簀枠を中城浜漁港から板良敷漁港内に曳航（1995年6月）、所定の中間育成場所に固定した。

8月4日に稚魚受け入れが決定したため、8月2日に生け簀網、餌等の受け入れ準備し、8月4日に栽培漁業センターよりハマフエフキ稚魚3万尾（TL20mm）をトラックに掲載した活漁水槽に収容し、陸上から板良敷漁港に輸送、護岸より50m地先の中間育成施設内にジャバラホースを使用して流し込みにより稚魚を放養、作業は約100分で終了、斃死尾数は約100尾程度で稚魚の活力は良好であった。

飼育管理（給餌・水質測定・その他）は与那原漁協及び中城沿振協職員が交替で行い、網替え作業は4～5名動員して実施した。

10月20日に生け簀網替え作業と同時に稚魚の測定を実施、その結果、平均尾叉長89.1mmの大きさ

であることから鰭抜き可能と判断、10月31日に鰭抜き作業を決定した。

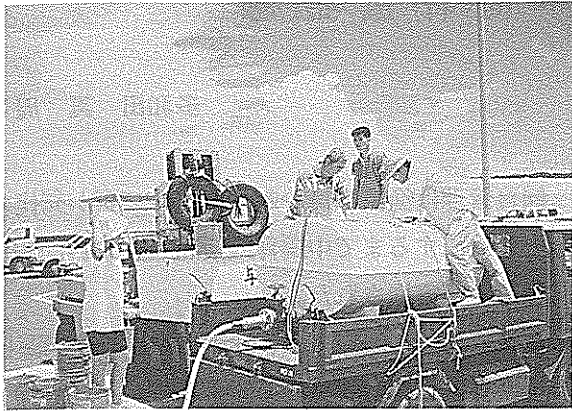
10月31日は47名の傘下組合員関係者参加により与那原町漁協セリ市場においてハマフエフキ稚魚4,321尾（平均FL90.4mm）の右腹鰭の鰭抜きを実施、午前中には標識作業が終了した。11月9日には板良敷漁港内中間育成場所付近に放流、当初計画では3ヶ所の放流場所を予定していたが、低歩留まりによる養成魚減数により放流場所は1ヶ所となった。

### 5. 問題点及び今後の課題

中間育成歩留まりが14.4%と前年度と比較して低率の中間育成結果となった。飼育管理者との連絡、不徹底、飼育管理等の対応の不備等が低歩留まりの要因と思われる、今後の大きな改善点である。

中城湾海域の漁業資源の減少傾向がみられるなかで、種苗放流効果（チンシラーの採捕）の成果が徐々ではあるが認められつつある。

このことは毎年、安定した数量の放流魚を添加することにより、漁獲量の増につながる。漁業者の賛同を得ながら大量放流が可能となるよう毎年、継続して標識放流を実施していきたい。そのためには、中間育成用の種苗数が絶対的に少なく、栽培漁業センターの供給増に期待したい。仮に40～50万尾の種苗を受け入れたならば、10万尾以上の放流数は可能であり、放流魚の鰭抜き標識作業には3～4日間要するため、組合員の動員増により、栽培漁業の意識改革啓蒙に寄与するものと思われる。

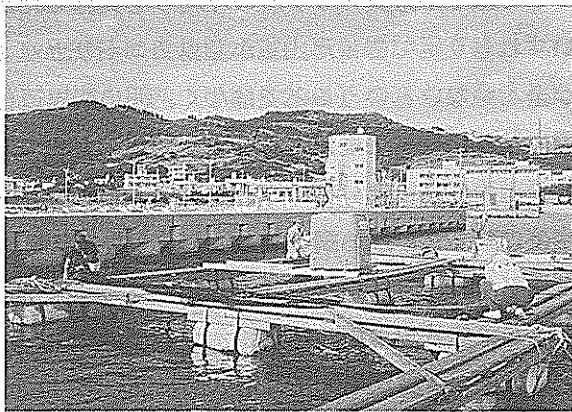


ハマフエフキ稚魚の流し込み作業



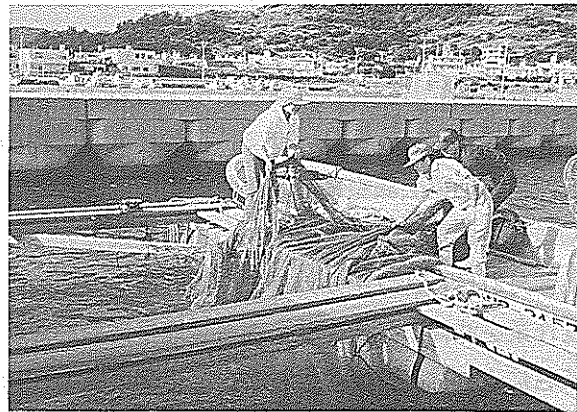
ハマフエフキ中間育成施設

板良敷漁港



ハマフエフキ中間育成給餌作業

板良敷漁港



ハマフエフキ中間育成生け簀網替え作業

板良敷漁港

板良敷漁港  
 板良敷漁港のハマフエフキ稚魚の  
 流し込み作業の様子

板良敷漁港  
 板良敷漁港のハマフエフキ中間育成施設  
 の様子